

天六ガス爆発事故から 50 年

写真は朝日新聞 4 月 2 日夕刊。事故から一夜明けた現場周辺。路面を覆っていたコンクリート製のパネルが吹き飛ばされ、沿道の民家も焼けた=1970 年 4 月 9 日。この記事を読んで、地下鉄「天神橋筋 6 丁目」に行き、事故現場のあたりを歩いた。国分寺境内にある慰霊碑の前で手を合わせた。

『北区史』1980 年のなかで、事故について生々しく書かれているので、抜粋して紹介したい。

万国博が開かれて間もない昭和 45 年 4 月 8 日、市営地下鉄 2 号線（谷町線）の延長工事現場（大淀区国分寺町の市道北野都島線）で「天六ガス爆発事故」が起きた。都市再開発が誘発した悲劇であった。一度に 79 人のいのちを奪い、重軽傷 420 人、建築被害 495 戸（546 世帯）を出した大惨事は、戦後の炭鉱事故を除くとわが国産業災害史上最大のもので、エキスポムードにわく大阪を、一転して恐怖のまちにおとし入れた。

市消防局の調べによると、工事現場（第 4 工区）西北部分の路面下坑内に宙づりとなっていた中圧ガス管（直径 30 ㍎）からガスもれが起こったのが 8 日午後 5 時 15 分。大阪瓦斯北営業所の緊急事故処理車 1 台がかけつけ、すぐひび割れ箇所を発見、同 39 分、停車位置をかえようとエンジンをかけた瞬間、プラグの火花がもれたガスに引火して車は火に包まれ、運転手は大けがをした。この車両火災に多くの市民や作業員が集まり、消防車やパトカーが出動してきたところへ、同 47 分から数秒の間に、坑内に充満していたガスに引火、3 回連続して大爆発が起こった。

「ドカーン」という大音響とともに群衆は、地下鉄工事の覆いにしていた畳 1 畳もある重さ 380 ㍏のコンクリート舗板 1500 枚とともに吹き飛ばされた。道路は長さ 120 ㍎、幅 10 ㍎、深さ 5 ㍎にわたって陥没、市民や作業員、さらに通行の自動車などがあつという間にその中ののみ込まれ、爆風で吹き飛んだ土砂や舗板、敷石を浴びて死傷者が続出した。民家や商店もメチャメチャにこわれ、たちまち火に包まれた。

吹き飛ばされて電柱にぶら下がった死体。着衣をはぎとられて裸同然の道端の遺体。もがきながら火に包まれる人たち。地底につきささった車。そのそばでドロまみれになって死んでいる子供。地下鉄工事の鉄骨に足をはさまれ、逆さづりになっている重傷者。そしてがれきの山の間に血まみれの人、人。さながら地獄絵であった。



(2020 年 4 月 8 日)